

学びと育ちの わくわく通信



令和5年
9月

保護者の皆さんに役立つ情報をお伝えし、子育てや家庭での教育を支援します。

発行
旭川市教育委員会社会教育課
☎0166-25-7190

メディアとの接し方、考えてみませんか？



暑かった夏が終わり、過ごしやすい気候になりました。日暮れが早くなり、家の中で過ごす時間も増えてきたのではないのでしょうか。

今回は、上川教育局教育支援課社会教育指導班が、メディアとの接し方について紹介します。

「メディア」って？

「メディア」とは、情報を伝えたり、記録したりするときに用いられる物や装置、又は、それらを利用して人に情報を伝達・配布する仕組みのことを指します。例えば、テレビやラジオ、ビデオ、DVDだけでなく、パソコンや携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機なども含みます。最近のメディアの大半はほとんどが電子媒体によるものなので、「電子メディア」と呼ぶこともあります。

「テレビ」から「インターネット」へ



私たちが子どもの頃は「テレビの見過ぎはよくない」「テレビは2時間までね」なんて、よく叱られたものです。でも、最近の子どもたちは、あまり地上波のテレビを見ないと言われています。

「学研教育総合研究所『小学生白書30年史』」によれば、小学1～6年生の1日の平均テレビ視聴時間は、1997年の**146分**を頂点として、2019年には**75分**にまで減少しているそう。これは、保護者や先生の言いつけを守って、テレビを見過ぎないように子どもたちが気をつけるようになったということでしょうか。いや、もちろん違うことは皆さんもよくご存じですね。子どもたちが接するメディアが、テレビから、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのインターネット接続が可能なものになっていったということです。ゲーム機も昔と様変わりし、インターネット接続が可能なものがほとんどです。

令和4年度に内閣府が実施した「青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、10歳～17歳の青少年が家庭で使用するインターネット通信機器は、スマートフォンが最多で、次いで、学校から配布・指定されたパソコンやタブレット等、ゲーム機となっています。学校現場ではここ数年、「GIGAスクール構想」によってICT機器の利活用が図られ、子どもにとってインターネットはますます身近なものになっていると言えるでしょう。

メディアと接する「時間」だけでなく「中身」も確かめて！



学習にインターネットを利用する機会が増え、子どものインターネット利用時間はますます長くなっています。そのため、単に利用時間だけを見て判断するわけにもいきません。一方で、令和4年度の全国学力・学習状況調査では、1日あたりのゲームの時間が長いほど、また1日あたりのSNSや動画視聴を行う時間が長いほど、各教科の平均正答率が低いという結果が出ています。

ということは、子どもがメディアと接する「時間」だけを気にするのではなく、「何を、どのように使っているのか」という、メディア利用の「中身」について、保護者が一緒になって確認し、ルール作りをしていくことが大切だといえます。

内閣府では、急速に拡大するインターネット利用に合わせ、子どもたちを様々な危険から守るために「青少年の保護者向け普及啓発リーフレット」を作成しています。（令和5年4月よりこども家庭庁に移管）。また、北海道教育委員会でも、「生活リズムチェックシート」の作成などを通し、子どもの望ましい生活習慣の定着に向けた取組を進めています。詳しくは北海道教育委員会のホームページをご覧ください。

出典：「小学生白書30年史（1989～2019年）Web版」学研教育総合研究所、「令和4年度青少年のインターネット利用環境実態調査調査結果（概要）」内閣府、「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」国立教育政策研究所